

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2170200535 | | |
| 法人名 | (有)アイシン | | |
| 事業所名 | グループホームだいこんの花 | | |
| 所在地 | 岐阜県関市西神野605番地2 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年10月5日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年12月21日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るく家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にしましょう」との理念を念頭に、言葉遣いに気を付け、笑顔・尊敬する気持ちを忘れない様に務めている。本人本意の支援を心掛けている。それは、何を希望され、何に困ってみえるか、いまここでどのような気持ちでみえるのか等、声なき声を聴き、対応していくこと。介護業務という考えではなく、入居者様の出来ない部分のお手伝いをさせて頂くという気持ちで日々努めています。職員も一緒にソファに座って、会話をしている時間、歌を唄う時間など家庭的な雰囲気を大切にしています。個々の入居者様の施設前の生活を深くアセスメントし、その内容を含めコミュニケーションを行うなど少しでも安心して過ごして頂けるようにも努めています。個々の入居者様の在宅生活の延長上である事を念頭に置いてケアにあたっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2170200535-00&SerViceOd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 旅人とたいようの会 |
| 所在地 | 岐阜県大垣市橋町1丁目3番地 |
| 訪問調査日 | 令和4年11月24日 |

職員は、理念を踏まえて利用者一人ひとりが入居前の暮らしを継続できるように取り組んでいる。出来る事が少なくなっても昔やっていた事や得意な事を引き出して、細仕事・洗濯物干し・洗濯物たたみ・食事の準備や片づけ等利用者の力を活かして張り合いや喜びのある生活にしている。また、食事や入浴時間をずらしたり、テレビや録画番組を見たり、居室で好きな事をする等本人の思いを大切にしたい支援をしている。コロナ禍で外出は困難であるが、足の運動や歌で声を出す事を日課に取り入れ筋力低下や誤嚥の防止にも努めている。管理者と職員は些細なことも連絡し合って話しやすい関係を築いている。急な休みにも互いに協力し合って働きやすい環境の中で、利用者と共に楽しく笑顔が見られることに取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念は玄関に掲げる事により目に入り意識づけられる。ミーティング時一同で読み上げることにより再確認している。家庭的な雰囲気であるゆったりと過ごせる時間を提供できている。 | 職員は、利用者一人ひとりの思いとペースを大切にケアに努め、家庭的な暮らしが継続できるように取り組んでいる。会議で理念が実践できているかを振り返り、気づきなどを話し合っ新たな気持ちで実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナウイルス流行の為、密なかかわりが無いものの、交流センターに来られる住民と挨拶を交わしている。 | 互いの行事が中止となり交流が出来ないが、散歩時や隣接の交流センターに来る住民と挨拶を交わしている。旬の野菜をもらうこともある。交流センターに事業所の活動状況「ひなたぼっこ」通信を掲示して前回の課題への取り組みを行った。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | コロナウイルス流行の為、地域の人々の交流自体が行えていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナウイルス流行の為、紙面での開催を行っている。文章にて意見を頂いて反映させている。 | 書面会議時は、事業所の状況や取り組みを報告して意見等の返答をもらい、回答を議事録にまとめて返信している。行政からの市内の介護事故報告集計結果から、勉強会を行いヒヤリハットと事故報告の見極めの参考にも活かす事が出来た。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | コロナウイルス関係で高齢福祉課へ電話にて相談する機会が多くあり、丁寧に指導して下さい、大変助かりました。 | コロナ感染予防対策や提出書類等、担当に電話やメールで相談し説明や助言をもらっている。市主催の土砂災害についてのズーム研修に参加して情報を受けている。介護相談員の訪問も継続して受けるなど協力関係を築くよう取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 管理者、看護師、介護福祉士等で、身体拘束等廃止委員会を3ヶ月に1回行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。その後職員の勉強会を行っている。玄関の施錠は日中は行っていない。 | 身体拘束適正委員会や勉強会を定期的開催し拘束をしないケアを理解して取り組んでいる。特に言葉による拘束に気をつけ、優しい言葉づかいを心がけている。不適切な対応があればその場で注意し合っている。虐待防止についても定期的に具体的な事例をあげて話し合っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 3ヶ月に1回身体拘束、虐待防止委員会を実施。職員間で話し合いを行い状況把握と対応を行っている。 | | |

グループホームだいこんの花

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修を受ける事で、成年後見制度を学ぶことができたが、活用できておらず、機会がまだない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前に家族と話し合い、契約時に管理者が契約に関し丁寧に説明し家族の方に理解して頂いている。また、分からない事があれば、契約時に限らず都度電話にて対応している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族様には、運営推進会議開催予定月に意見を記入して頂ける用紙を郵送して、ご家族様の要望を職員間で共有出来る様回覧している。 | 利用者の暮らしぶりを知らせる便りに、担当者が個々の近況を記載して意見や要望を聞いている。面会時や電話でも聞き、運営推進会議の書面会議時は、全家族に聞いている。新聞を居室で読むのに椅子がほしいとの要望に対応している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1度のミーティングで職員同士の意見交換をし 上司の意見も聞いて話し合い、サービスに反映させている。 | 管理者は、日頃から職員の提案や要望を聞く姿勢を持ち、言いやすい雰囲気を作っている。勤務変更や行事の材料購入等の相談にも応じている。家族とラインアプリで情報交換が出来るようにスマートフォンの導入の提案を検討している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている | 代表者は 現場に顔を出されて、働きやすい職場環境に務めている。提案したケアを行うことにより改善がみられると仕事にやりがいを感じる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 全職員の向上を図るべく研修を受講出来るように配慮している。zoomにて他施設の職員と話せる機会があった。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ケアマネに関しては、定期的な研修、zoomにて行っている。他の職員も参加できる様取り組みたい。 | | |

グループホームだいこんの花

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の面接や入居時等に安心して生活できる場所として感じて頂けるようコミュニケーションを取っている。職員同士情報を共有し不安の解消信頼関係に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 電話にて細かく入居者様の現状報告を実施、家族も悩みがある場合が多い、家族様の話を傾聴し今後の支援に取り入れて、ホームでの生活を安心して送れるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | アセスメント等前情報を職員間で共有して、出来る限り、ニーズにあった対応が出来るよう心がけている。特に主治医との連携に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 共に生活をする中で入居者様は人生の先輩である事を意識して、馴れ馴れしい関係ではなく、家族の一員として接するように心がけている。洗濯物を依頼したり、それぞれの入居者様に出来る事を見極め、依頼している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 往診以外の受診はご家族様へ依頼するなど、ご家族様の協力を得ている。現状を細かく説明させて頂き、本人様に対してどのようなケアが良いか、一緒に考えている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍でなければ、もっと施設の外に出て馴染みのある場所に訪れたいと考えているが、実施出来ず。電話にて馴染みのある方とお話をして頂く事は実施出来ている。 | 携帯電話を持つ利用者は、家族や友人・遠方の親戚と話をしている。事業所の電話で取り次ぐこともある。面会は窓越しで行い、家族から情報を得て友人がみえたこともある。年賀状の宛名書きを手伝う等関係が途切れないように支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様同士が出来る限り良いコミュニケーションを図ることが出来るようにリビング・食堂等の席をその都度考慮していくように努めている。 | | |

グループホームだいこんの花

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービスを終了しても、連絡を頂いた場合などは現状をお聞きしている。時折はがきでのやり取りを行うご家族様もあり。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人様の思いや希望を聞きとり 出来ることから始めている。困難な方でも声掛けし、表情を伺いながら検討している。 | 利用者とのコミュニケーションを大切に思いを聞いている。共同の場より入浴等の一対一になる時間に話す人もあり、利用者一人ひとりに合わせて表情や仕草からも思いの把握をしている。利用者の希望や思いを記録に残し職員間で共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 通所サービスを利用してみえた方は、夕方になると帰宅願望が強くなる。特に夕方はそういった入居者様に寄り添うように努めている。面接で本人、家族に生活歴等を聞き 情報シートで職員と共有しコミュニケーションに活かしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の日誌の確認、申し送り等による把握 表情や行動の観察に努めている。日差があり、毎日同じように出来ない方にも、無理強いする事なく、その方のペースで過ごして頂くよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 月1度のミーティング時、入居者様個々の現状を把握し、支援方法を職員全員で考え、ケアに対しての見直しも実施出来ている。 | コロナ禍で担当者会議を開催出来ないため、家族の要望は電話で聞いている。毎月の会議で話し合う利用者の状態と担当者が行うモニタリングを基に介護計画を作成している。状態に変化があれば速やかに見直している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 普段と変化があれば、必ず個人介護記録に記録している。介護記録や連絡ノートなどを活用し情報の共有をしている。ケアプラン、モニタリング時、見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ミーティング時にケアの方法について話し合いを行い、本人、家族の状況に応じて柔軟な対応に努めている。 | | |

グループホームだいこんの花

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 相談員に来所して頂いている。訪問理美容、往診の利用を支援している。コロナ感染予防によりボランティアの依頼は中止となっている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居後も、かかりつけ医の診察を希望され継続される方と、訪問診療している協力医に変更する方もある。認知症状が重い方には、専門医の訪問診療をお願いしている。 | 協力医に変更して訪問診療を受ける人もいるが、家族の付き添いで入居前のかかりつけ医を受診している。「介護保険連携連絡表」を活用して情報の共有に努めている。夜間の急変時は、家族に連絡して職員が対応している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 小さな変化・気づきでも記録や口頭で看護師に伝え受診の判断をしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時から退院まで医療機関の相談員と連携を図っている。カンファレンスなどにも積極的に参加して退院後につなげている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時の説明では看取りは行っていないと伝えているが、重度化してきた際にはどのように対応していくか、家族の希望もどこまで取り入れるか、訪問診療の主治医との連携も強化している。 | 入居時に事業所の方針を説明している。経口からの栄養摂取や入浴が困難な状態があれば医師に相談して家族に説明している。医療や介護施設の情報提供をしながら家族の希望に添うよう話し合い、安心して次につながるように事業所の出来る限りの支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急車要請の手順はマニュアルがある。怪我の場合は、管理者と連携し緊急時の連絡方法も徹底し連絡しやすくしてある。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回避難訓練を行っている。近隣の方には交流センターにみえたとき口頭にて火災時等の協力依頼をしている。災害の発生時に備えて飲料水・食品類を少し準備している。 | 夜間想定を含め年2回避難訓練を実施している。水害時の避難場所についても検討している。飲料水・食品・卓上コンロの備蓄をしている。協力体制については、地域の災害訓練が中止となっているため、交流センターに来る住民や年度始めに自治会長宅へ挨拶に行った時に口頭で依頼している。 | 災害時の訓練や事業所の実態を発信して、地域の方に協力してもらった具体的な内容をお願いする等、更なる協力体制づくりを期待する。 |

グループホームだいこんの花

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | トイレ誘導などは耳元で声かけしたり、少し散歩でもと言って他の人に聞こえないようにしている。うまく対応できない時は、職員が交代して対応している。夜間居室で使用するポータブルトイレは朝には清掃し片付けさせて頂いている。 | 家庭的な雰囲気の中でも馴れ合いにならないよう気をつけている。○○さんと呼び、必ずノックをして入室している。トイレ誘導の声かけは、語調がきつくならないようにして周りにも配慮している。特に排泄介助には自尊心を損ねないよう心がけている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 可能な限り、自己決定しやすいように声かけに配慮している。入居者様の希望に添えるよう強制しないような支援をしている。例えばどのおやつが良いか等。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ある程度の施設の流れはあるが、入居者様自身が拒否される時は無理強いする事なく時間を置いて声掛けを実施するなどの対応を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 居室にてハンガーにかけてある服を好きなように着て頂いている。化粧品やヘアスタイル等、入居者様の希望を伺うようにしている。ウイッグを利用される入居者様もあり。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立を作成するとき、季節物を入れ入居者様の要望も取り入れたり、もやしの掃除など、出来る事は取り組んで頂き、テーブル拭きなども依頼している。 | 利用者の好みや食べたい物をメニューに取り入れ、頂きものや旬の野菜を使って調理している。野菜の下ごしらえや後片付けを利用者も一緒に行っている。食事のあいさつとメニューを読み上げる当番があり食事を楽しめるよう工夫している。誕生日にリクエストメニューと手作りケーキでお祝いをしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 定期的(起床時、10時、11時、14時、15時、17時)な水分補給のほか、水分摂取の少ない方へは何度も摂取を勧めている。またご飯の減量・おかずの量・硬さ・大きさの調整、日々工夫をしている。夏場は塩分補給としてタブレットの提供。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケア介助、1日1回の義歯消毒を行い清潔保持に気を付けている。口腔ケアは自身で出来る方は見守り、出来ない方は介助にて行う。 | | |

グループホームだいこんの花

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を参考にパターンを把握し失禁等がないように早めにトイレ誘導をしている。出来るだけトイレでの排泄に力を入れている。 | 夜間はオムツやポータブルトイレの使用もあるが、日中はトイレでの排泄を基本とした支援に取り組んでいる。状態によっては二人介助で行っている。退院後、トイレでの排泄を支援してオムツから紙パンツになった事例がある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ほぼ毎日下肢運動、廊下の歩行訓練を実施している。朝食にバナナを提供し、それでも未排便時は、主治医に相談し下剤で調整している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 基本的には、入浴日を決めているが、ご本人様が強く拒否される場合は、無理強いせず別日にて提供。入浴中はゆっくりしてもらい本人ペースで出来る事をして頂くようにしている。 | ゆっくり静かに入りたい人、話をしたい人など一人ひとりに合わせた対応をしている。入浴を好まない人にも浴室を暖めたり、日時を変更したりして対応している。「温泉に入った気分」との声もあり、湯温・順番・入浴剤など利用者の希望にそって入浴を楽しめるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室でテレビをご覧になり過ごされる方もあれば、リビングにて録画番組をご覧になれる方、ご本人様の希望にて居室で休んで頂く時間もある。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤情報にて確認している。変更があった場合連絡帳で伝えている。誤薬や飲み忘れがないよう服薬時には職員間で名前・日付の確認をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 洗濯物干し・たたみ・片づけ・お盆ふき・台拭きなど、くらしの中で出来る事を行っている。楽しみごとの支援としては、レクリエーションを通して楽しんで頂いている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ感染予防として外出は避けている。敷地内の散歩は職員が同行している。 | 天候の良い日は敷地内の散歩をしている。車椅子の人と一緒にドライブに出かけ、花見や紅葉等季節を楽しんだり、ドライブスルーを利用して外食気分を味わったりしている。足の運動や歌の時間を日課に取り入れ筋力低下防止に努め、レクリエーションや誕生日会を工夫して楽しんでいる。 | |

グループホームだいこんの花

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | コロナ禍で外出できず、お金を使える機会がない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話を携帯されている方は居室で好きな時にかけて頂いたり、電話をしたいと希望される方は、事務所で出来るようにしている。年賀状を出したり 家族からの手紙をみて楽しまれたりしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングに花を飾ったり、入居者様に作成して頂いた季節感のあるカレンダー作りを心がけ、季節によってひな人形・五月人形・クリスマスツリーも飾ります。 | 利用者の起床後に全室の窓を全開し、日中も少し開けて感染予防に努めている。利用者と一緒に作った四季のカレンダーを飾り、各テーブルに一輪挿しの花を置いている。夏にはゴーヤを這わせ西日避けにしている。利用者がテーブル席やソファ等好みの席で居心地よく過ごせるよう配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食事席は決まった席になっているが、ソファ席は好きな場所に座れるようになっており、好きな時に居室で過ごされてる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時には、使い慣れたものがあれば充分ですと説明しているが、タンス等は購入される方が多いが、小物は自身で選ばれたり、家族様が選んだものが置いてある。 | 布団・テレビ・キーボード・時計等、使い慣れた物を持ち込んでいる。安全に動けるように家具の配置のアドバイスをしている。新聞を読んだり、テレビを見たり、キーボードを弾く等思い思いに過ごせるよう支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | その方「出来る事」「わかること」を見極めに努め「出来る事」を提供することで自立支援に努めている。動線の確認、手すりの活用。 | | |